

シェアラボを健都に開業

時間単位で利用、国内初

京都リサーチパーク

京都リサーチパークは4月1日、実験に必要な設備や機器、スペースを共用で貸し出すシェアラボ「ターンキーラボ 健都」を北大阪健康医療都市(健都)にオープンする。スタートアップ企業などが手軽にレンタルしやすいよう時間単位で利用する料金体系を導入した。時間単位で利用できるシェアラボは国内初。月単位でラボをレンタルする場合、利用していない時間も費用が発生



共用の機器や設備を貸し出し

生ずるため、負担が大きいという。交流促進のためのエリアも設けるなど、人や技術の集まるハブとして考えたい

ラボは摂津市内の健都イノベーションパークNKビル4階にオープン。広さ約930㎡と国内最大級のシェアラボで、実験スペース2カ所と、打ち合わせや交流の場となるサロンスペースに分かれる。実験スペースのうち1カ所をP2/BSL2対応とし、遺伝子組み換え細胞

や病原性のあるウイルスを用いた実験のニーズに対応した。もう1カ所を細胞やウイルスを使わない実験のスペースとして提供する。24時間365日いつでも利用できる、利用者数は最大で約70人を見込んでいる。月額制のプランに応じて毎月一定のポイントを利用者に付与。設備や機器を利用した時間の分だけポイントを消費する体系とした。プランは最安3万3000円/月2ポイントを付与する。1ポイント当たり5500円で追加購入もできる。国内に2カ所ある他のシェアラボは月単位の利用を前提とした料金体系で、実験頻度の少ない利用者には負担が大きいという。利用者自身で設備や機器を用意するレンタルラボと比べて、小さな初期投資、短い準備期間で実験を始められる。レンタルラボを利用する場合、準備や機器の設置に半年ほどかかることもあるという。

25日に開いた内覧会で、京都リサーチパークの小川信也社長は、ラボ設立の背景について「アメリカのボストンなどにはシェアラボが多数存在しているため、ビジネスシーズを持つ人たちが拠点確保のストレスなく、すぐに実験を始められる環境が整っている」と説明。「最適な研究環境のほか、健都内外へと広がる連携、交流の機会を提供することでエコシステム形成の一翼を担いたい」と語った。